

- 一 「話」という漢字の部首名を次の中から一つ選んで、その記号に○をつけましょう。
- ア しんによう                      イ ごんべん                      ウ まだれ                      エ うかんむり
- 二 次の(1)・(2)の文の(    )に入るもっともふさわしい言葉を  の中からそれぞれ選んで、その記号を書きましよう。

- (1) (    ) 晴れていたなら、公園に行きましよう。
- (2) 最後まで (    ) あきらめません。

ア けっして    イ なぜ    ウ たとえ    エ もし

- 三 国語辞典に出てくる順番に、言葉が正しくならんでいるものを、次の中から一つ選んで、その記号に○をつけましよう。

- ア あひる いぬ いけ さる ざる
- イ あひる いぬ いけ ざる さる
- ウ あひる いけ いぬ さる ざる
- エ あひる いけ いぬ ざる さる

- 四 次の文の「花が」の述語はどれですか。一つ選んで、その記号に○をつけましよう。

花が  広い  野原に  たくさん  さいている。

- 五 次の文の「白い」は、どの言葉をくわしくしていますか。一つ選んでその記号に○をつけましよう。
- きのう、 白い  自動車が  ゆっくりと  走っていた。

- 六 森さんは、ねこのひげについて作文を書くことにしました。下書きをして読み直してみると、書き直したほうがよいところが見つかりました。どのように書き直したらよいかを説明したものととしてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましよう。

【作文の下書き】

※文のはじめにある①から⑤の数字は、文の番号を表しています。

①ねこは、口の左右に、長いひげがはえています。②ひげは、レーダーと言ってよいくらい  
の大切な役わりをはたしています。③くわしく調べてみると、ねこのひげのねもとは、大き  
な血管があります。④そのため、ひげの先が何かにふれるだけで、びんかんに感じとること  
ができる。⑤また、においをはこんでくる風の方をキヤッチすることもできます。

- 1 ①の文は会話文なので、文全体を「    」に入れるほうがよい。
- 2 ②と③の文をつなげる言葉として、「しかし」を③の文につけるほうがよい。
- 3 ④の文末の「できます。」を「できます。」にするほうがよい。
- 4 ⑤の文に、「わたしは」という主語を書きたすほうがよい。